

【ご参考資料】

2018年3月19日
野村アセットマネジメント株式会社



『野村未来トレンド発見ファンド』
Aコース(為替ヘッジあり)/Bコース(為替ヘッジなし)
愛称:先見の明

～モーニングスターの分析からも示される「良好なパフォーマンス」～

「モーニングスターの分析によるファンドのパフォーマンス」等の記述は、「Bコース(為替ヘッジなし)」のパフォーマンスのことで、「Aコース(為替ヘッジあり)」は、設定(2017年6月2日)後1年に満たないため、分析内容が公表されていません。

平素は格別のご高配を賜り、厚く御礼申し上げます。

「野村未来トレンド発見ファンド」(愛称:先見の明)では、中長期的な成長が見込まれる成長テーマを複数選定し、世界の成長企業の株式に投資を行なっています。

当資料では、投信評価会社であるモーニングスターの分析によるファンドの良好なパフォーマンスや、良好なパフォーマンスの背景にあると考えるファンドの強み、また、足元の投資環境、今後の見通し等についてご説明いたします。

モーニングスターの分析によるファンドの良好なパフォーマンス

モーニングスターの分析において、「Bコース(為替ヘッジなし)」の過去1年間のパフォーマンスは、同じカテゴリ(モーニングスターカテゴリ※1)に属するファンドと比較し、良好であることが示されました。

基準日: 2018年2月28日

※1 「Bコース」は、「国際株式・北米(ヘッジフリー型)」のモーニングスターカテゴリに属します。(2018年2月28日時点)

※2 「国際株式・北米(ヘッジフリー型)」に属するファンド数(2018年2月28日時点)

過去1年のパフォーマンス	
ファンド数: 182ファンド※2	
トータルリターン (カテゴリ)	20.24% (6.56%)
順位	24位
%ランク	14%
標準偏差 (カテゴリ)	6.19 (10.34)
順位	6位
%ランク	4%
シャープレシオ (カテゴリ)	3.27 (0.96)
順位	9位
%ランク	5%

同一カテゴリ内のファンドに対し
+13.68%のトータルリターン!

同一カテゴリ内のファンドに対し
-4.15(相対的に低リスク)!

同一カテゴリ内のファンドに対し
+2.31(相対的に効率的な運用)!

標準偏差と
シャープレシオは
上位5%以内

上記の表で使用されている用語について

- トータルリターン: ファンドが対象期間にどれだけ値上がり(値下がり)したかを示す。分配金(税引前)はすべてファンドに再投資されたものと仮定して計算、ファンドを売買する際の手数料控除前。
- 標準偏差(リスク): 数値が高い程、ファンドの対象期間のリターンのがれが大きかったことを示す。
- シャープレシオ: リスクに見合ったリターンが得られているかを表わす指標。数値が大きい方が、ファンドのとったリスクに対してリターンが大きい、つまり、効率よくリターンを上げている、優れた運用がなされていると評価される。
- 「カテゴリ」の数値: モーニングスターカテゴリに属するファンドの平均値。
- %ランク: モーニングスターカテゴリ内で、上位からどの程度の位置にいるか(ランク)を%で表示。

(出所) モーニングスターのデータより野村アセットマネジメント作成

上記は、モーニングスター株式会社が信頼できると判断したデータにより作成しましたが、その正確性、安全性等について保証するものではありません。著作権、知的所有権等一切の権利はモーニングスター株式会社並びにMorningstar, Inc.に帰属し、許可なく複製、転載、引用することを禁じます。

— 上記は過去の運用実績であり、将来の運用成果を示唆あるいは保証するものではありません。 —

当資料は、ファンドのご紹介を目的として野村アセットマネジメントが作成したご参考資料です。当資料は信頼できると考えられる情報に基づいて作成しておりますが、情報の正確性、完全性を保証するものではありません。当資料中の記載内容、数値、図表等については、当資料作成時点のものであり、事前の連絡なしに変更されることがあります。なお、当資料中のいかなる内容も将来の投資収益を示唆あるいは保証するものではありません。ファンドは、株式などの値動きのある有価証券等に実質的に投資します(また、外貨建資産に投資しますので、この他に為替変動リスクもあります。)ので、基準価額は変動します。したがって、元金が保証されているものではありません。ファンドに生じた利益および損失はすべて受益者に帰属します。お申込みにあたっては、販売会社よりお渡しする投資信託説明書(交付目論見書)の内容を必ずご確認ください。

ファンドの強み ～複数の成長テーマに投資～

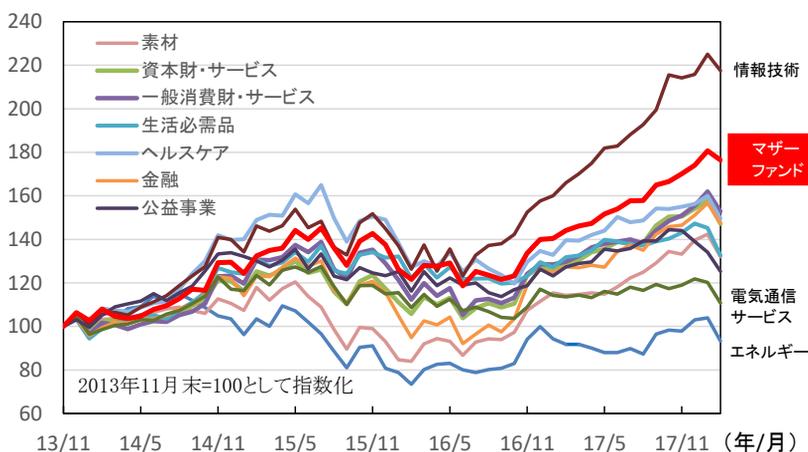
より長期での運用のイメージをつかんでいただくために、ファンドが主要投資対象とする「グローバル・マルチテーマ マザーファンド」(2013年11月15日設定)の過去の運用データを基にご説明しています。マザーファンドの運用実績は、ファンドの運用実績ではありません。なお、マザーファンドにおいて、組入外貨建資産については、原則として為替ヘッジを行いません。

マザーファンドの設定来のパフォーマンスは、世界株のセクター別指数と比較して、概ね良好に推移しました。また、マザーファンドは設定来で、情報技術を除くセクター別指数を上回って上昇しました(<図1>)。さらに、マザーファンドはリスクに対するリターンが相対的に高く、効率的な運用となりました(<図2>)。

ファンドは、中長期的な成長が見込まれる成長テーマを複数選び、銘柄を厳選して投資します。この、複数のテーマに投資することが、単一のテーマ(例えば、エネルギーに特化、ヘルスケア関連に特化など)に投資することに比べ、中長期で効率的な運用を期待できるポイントの一つであると考えます。

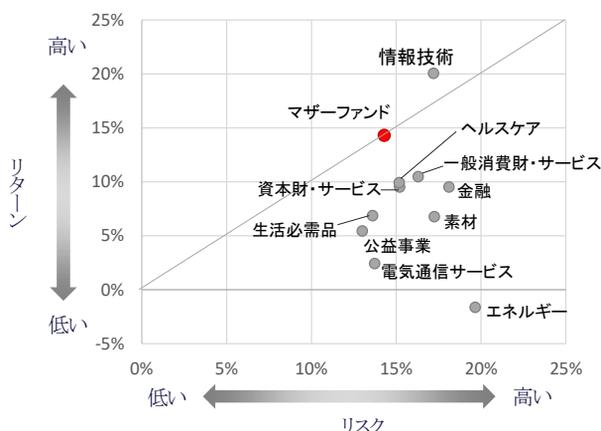
<図1> マザーファンドと世界株(セクター別)のパフォーマンス推移(円ベース)

期間:2013年11月末(マザーファンド設定月末)～2018年2月末、月次



<図2> マザーファンドと世界株(セクター別)のリスク・リターン分布(円ベース、年率)

期間:2013年11月末(マザーファンド設定月末)～2018年2月末、月次



・リスクは月間変化率の標準偏差を年率換算しています。

世界株(セクター別):MSCIオール・カンントリー・ワールド・インデックスのセクター別指数
(出所)FactSetのデータより野村アセットマネジメント作成

上記は過去のデータであり、将来の投資成果を示唆あるいは保証するものではありません。
また、ファンドの運用実績ではありません。ファンドの運用成果を示唆あるいは保証するものではありません。

当資料は、ファンドのご紹介を目的として野村アセットマネジメントが作成したご参考資料です。当資料は信頼できると考えられる情報に基づいて作成しておりますが、情報の正確性、完全性を保証するものではありません。当資料中の記載内容、数値、図表等については、当資料作成時点のものであり、事前の連絡なしに変更されることがあります。なお、当資料中のいかなる内容も将来の投資収益を示唆あるいは保証するものではありません。ファンドは、株式などの値動きのある有価証券等に実質的に投資します(また、外貨建資産に投資しますので、この他に為替変動リスクもあります。)ので、基準価額は変動します。したがって、元金が保証されているものではありません。ファンドに生じた利益および損失はすべて受益者に帰属します。お申込みにあたっては、販売会社よりお渡しする投資信託説明書(交付目論見書)の内容を必ずご確認のうえ、ご自身でご判断ください。

ファンドの基準価額の推移

「Aコース(為替ヘッジあり)」の基準価額は、2017年6月2日の設定以降、2018年1月頃までは概ね堅調に推移しました。

「Bコース(為替ヘッジなし)」の基準価額は、2015年11月27日の設定以降、原油価格の下落等を背景に世界の株式市場がリスクオフ(投資リスクの回避)の状況となったことに加え、米ドルの為替レート(対円)が下落基調(円高)で推移したことなどから軟調な推移となりました(ポートフォリオの実質通貨比率の大半は米ドルです)。しかし、2016年11月頃から、主要国の株式市場が上昇基調となったことや、米国長期金利の急上昇に伴い米ドルの為替レート(対円)が上昇基調(円安)となったことなどを背景に、基準価額は上昇に転じました。

2018年2月には、「Aコース」「Bコース」ともに、米国株式市場の下落を発端とした株式市場の変動による基準価額の下落を経験したものの、組入銘柄の良好な決算内容を受け、足元では基準価額は上昇しました。

＜図3＞基準価額の推移



基準価額(分配金再投資)とは、当初設定時より課税前分配金を再投資したものと計算した価額であり、ファンドの収益率を測るためのものです。したがって、課税条件等によって受益者ごとに収益率は異なります。また、換金時の費用・税金等は考慮しておりません。

— 上記は過去の運用実績であり、将来の運用成果を示唆あるいは保証するものではありません。 —

＜図4＞米ドルの為替レート(対円)の推移



(出所)ブルームバーグのデータより野村アセットマネジメント作成

— 上記は過去のデータであり、将来の投資成果を示唆あるいは保証するものではありません。また、ファンドの運用実績ではありません。ファンドの運用成果を示唆あるいは保証するものではありません。 —

当資料は、ファンドのご紹介を目的として野村アセットマネジメントが作成したご参考資料です。当資料は信頼できると考えられる情報に基づいて作成しておりますが、情報の正確性、完全性を保証するものではありません。当資料中の記載内容、数値、図表等については、当資料作成時点のものであり、事前の連絡なしに変更されることがあります。なお、当資料中のいかなる内容も将来の投資収益を示唆あるいは保証するものではありません。ファンドは、株式などの値動きのある有価証券等に実質的に投資します(また、外貨建資産に投資しますので、この他に為替変動リスクもあります。)ので、基準価額は変動します。したがって、元金が保証されているものではありません。ファンドに生じた利益および損失はすべて受益者に帰属します。お申込みにあたっては、販売会社よりお渡しする投資信託説明書(交付目論見書)の内容を必ずご確認のうえ、ご自身でご判断ください。

ファンドの組入上位10銘柄(2018年2月28日現在)

< >内の国・地域は原則発行国・地域で区分しています。

	銘柄	国・地域	業種	成長テーマ	純資産比
1	MASTERCARD INC-CLASS A マスターカード	<米国>	ソフトウェア・サービス	フィンテック	4.6%
2	AMAZON.COM INC アマゾン・ドット・コム	<米国>	小売	新技術・新製品・ 新サービス	4.6%
3	HONEYWELL INTERNATIONAL INC ハネウェルインターナショナル	<米国>	資本財	スマートシティ	3.5%
4	BOEING CO ボーイング	<米国>	資本財	スマートシティ	3.4%
5	SAFRAN SA サフラン	<フランス>	資本財	スマートシティ	3.2%
6	HOME DEPOT ホーム・デポ	<米国>	小売	消費の拡大・多様化	3.2%
7	FAIR ISAAC CORP フェア・アイザック	<米国>	ソフトウェア・サービス	アウトソーシング	3.1%
8	NVIDIA CORP エヌビディア	<米国>	半導体・半導体製造装置	新技術・新製品・ 新サービス	3.1%
9	ADOBE SYSTEMS INC. アドビシステムズ	<米国>	ソフトウェア・サービス	インターネット	3.0%
10	INTUITIVE SURGICAL INC インテューイティブ・サージカル	<米国>	ヘルスケア機器・サービス	高齢化社会	3.0%

・銘柄の成長テーマ分類は適宜見直しを行なうため、分類が変更になる場合があります。
・純資産比は、マザーファンドの数値です。

組入銘柄数：46銘柄

— 上記は過去の運用実績であり、将来の運用成果を示唆あるいは保証するものではありません。 —

組入上位10銘柄から、ファンドのパフォーマンスに、より寄与した銘柄の例として次の5銘柄を取り上げ、直近の決算内容の注目点をご紹介します。

マスターカード (MASTERCARD INC-CLASS A) <米国>

決算内容

- ✓ 2017年第4四半期は、カード等の利用金額の伸び(前年同期比+13%)などにより、営業利益が前年同期比+23%。
- ✓ 2016-18年の会社見直しでは、法人税減税の恩恵や、電子決済の拡大を背景とする良好な事業環境や営業費用の抑制に対する経営陣のコミットメントなどを背景に、EPS(一株当たり利益)の年平均成長率見通しが従来の+10%台から+20%台へと引き上げられた。

今後の見直し

- ✓ 多様化する決済サービス対応のため、2010年に設立したMasterCard Labsで、新サービス開発に積極的に取り組む。
- ✓ 「Apple Pay」、「Android Pay」、「Facebook Payments」等との提携や、英国のATMやモバイル決済サービスを提供するVocaLink社の買収などを発表し、増加するモバイルコマース利用者の取り込みを強化。
- ✓ サービス範囲の拡大を目指し、予測分析ソフトウェアの開発やセキュリティ関連ソフトの開発などにも積極的な投資を続け、中長期的な成長が期待できる。

<図5> 株価の推移

2013年12月31日～2018年2月28日、日次



(出所)ブルームバーグのデータより野村アセットマネジメント作成

記載内容(各種情報より野村アセットマネジメント作成)は資料作成時点で確認できるものを使用しており、今後修正される場合があります。上記は、ファンドの上位組入銘柄の参考情報を提供することを目的としており、特定銘柄の売買などの推奨、また価格などの上昇や下落を示唆するものではありません。 — 上記は過去のデータであり、将来の投資成果を示唆あるいは保証するものではありません。

当資料は、ファンドのご紹介を目的として野村アセットマネジメントが作成したご参考資料です。当資料は信頼できると考えられる情報に基づいて作成しておりますが、情報の正確性、完全性を保証するものではありません。当資料中の記載内容、数値、図表等については、当資料作成時点のものであり、事前の連絡なしに変更されることがあります。なお、当資料中のいかなる内容も将来の投資収益を示唆あるいは保証するものではありません。ファンドは、株式などの値動きのある有価証券等に実質的に投資します(また、外貨建資産に投資しますので、この他に為替変動リスクもあります。)ので、基準価額は変動します。したがって、元金が保証されているものではありません。ファンドに生じた利益および損失はすべて受益者に帰属します。お申込みにあたっては、販売会社よりお渡しする投資信託説明書(交付目論見書)の内容を必ずご確認ください。

アマゾン・ドット・コム (AMAZON.COM INC) <米国>

決算内容

- ✓ 2017年第4四半期は、クラウド事業(AWS:アマゾンウェブサービス)、eコマース事業ともに高い伸びを記録。
- ✓ 同四半期の売上高は、約604億米ドル(前年同期比+38%)と事前の市場予想を上回った。
- ✓ EPSについても、3.75米ドルとなり、市場予想を上回った。

今後の見通し

- ✓ 世界的にeコマースの拡大が進む中、米国スーパーチェーンの買収やビデオコンテンツ配信サービスの開始など、インターネットショッピングの枠を超えて事業領域を拡大し、同社の競争優位性はますます強まっていると考えられる。
- ✓ クラウド事業は、新しい社会インフラと捉えられており、私たちの身の回りのあらゆるサービスに結びつきながら今後も拡大すると考えられている。業界におけるリーディングカンパニーとして、同社のAWSの更なる成長を期待。

<図6> 株価の推移

2013年12月31日～2018年2月28日、日次



(出所)ブルームバーグのデータより野村アセットマネジメント作成

ボーイング (BOEING CO) <米国>

決算内容

- ✓ 2017年第4四半期は、売上高が254億米ドル、EPSが3.06米ドルと、それぞれ市場予想を上回った。
- ✓ フリーキャッシュフローの順調な拡大も確認された。
- ✓ 2018年業績の会社見通しでは、2017年実績比+10%のフリーキャッシュフローを見込む。

今後の見通し

- ✓ 良好な世界経済動向を背景とした航空旅客数の伸びが、今後も航空機メーカーの業績を下支えしていくことが期待される。
- ✓ トランプ米大統領の「国家安全保障戦略」では、米国の兵器システムの最新鋭化、米国の武力体制の拡大、即応能力の改善、不正規戦での高い戦闘能力維持を優先させていることから、米国国防総省の予算は増加し、同社の業績拡大にも寄与することが期待される。

<図7> 株価の推移

2013年12月31日～2018年2月28日、日次



(出所)ブルームバーグのデータより野村アセットマネジメント作成

記載内容(各種情報より野村アセットマネジメント作成)は資料作成時点で確認できるものを使用しており、今後修正される場合があります。上記は、ファンドの上位組入銘柄の参考情報を提供することを目的としており、特定銘柄の売買などの推奨、また価格などの上昇や下落を示唆するものではありません。上記は過去のデータであり、将来の投資成果を示唆あるいは保証するものではありません。

当資料は、ファンドのご紹介を目的として野村アセットマネジメントが作成したご参考資料です。当資料は信頼できると考えられる情報に基づいて作成しておりますが、情報の正確性、完全性を保証するものではありません。当資料中の記載内容、数値、図表等については、当資料作成時点のものであり、事前の連絡なしに変更されることがあります。なお、当資料中のいかなる内容も将来の投資収益を示唆あるいは保証するものではありません。ファンドは、株式などの値動きのある有価証券等に実質的に投資します(また、外貨建資産に投資しますので、この他に為替変動リスクもあります。)ので、基準価額は変動します。したがって、元金が保証されているものではありません。ファンドに生じた利益および損失はすべて受益者に帰属します。お申込みにあたっては、販売会社よりお渡しする投資信託説明書(交付目論見書)の内容を必ずご確認ください。

ホーム・デポ (HOME DEPOT) <米国>

決算内容

- ✓ 2017年第4四半期は、ハリケーン復興需要もあり、既存店売上高が前年同期比+7.5%と、市場予想を上回った。
- ✓ eコマースやプロ向けビジネスの好調さ、客単価900米ドル以上の客数の高い伸びなども、売上高の増加に寄与。
- ✓ EPSは1.53米ドルと市場予想を上回り、堅調な米住宅市場を追い風に、シェア拡大に成功していることが改めて確認された。

今後の見通し

- ✓ 2018年度の既存店売上高の会社予想を前年度比+5%と発表し、良好な販売状況が継続する見通しが示された。
- ✓ 同業の米大手2位のホームセンター会社の営業利益率が過去数年間低迷しているのに対し、同社はそれを毎年着実に改善させてきた実績に加え、法人税減税に伴う投資加速や株主還元策の拡充なども株価の下支え要因になると考えられる。
- ✓ 「One Home Depot」戦略のもと、実店舗とeコマースを密接につなぐオムニチャネル強化では業界をリードしており、中長期的な成長に寄与すると期待される。

<図8> 株価の推移

2013年12月31日～2018年2月28日、日次



(出所)ブルームバーグのデータより野村アセットマネジメント作成

インテューイティブ・サージカル (INTUITIVE SURGICAL INC) <米国>

決算内容

- ✓ 2017年第4四半期の売上高は、約8.9億米ドル(前年同期比+18%)と、システム販売と手術関連器具の販売実績が予想以上であったことから市場予想を上回った。
- ✓ 特に、システム販売台数(機器売上)は、四半期ベースで過去最高水準の216台となり、新製品投入の効果も確認できた。
- ✓ 注目度の高い2017年の手術件数は、前年比+16%と市場予想及び会社予想を上回った。2018年の手術件数の会社予想は、前年比+11～15%となり、従来より引き上げられた。

今後の見通し

- ✓ 堅調な手術件数の伸びの背景には、ヘルニアなどの一般手術の拡大がある。日本でも、胃、肺、子宮などを対象とした手術など新たに12種類の手術が保険適用となったことで、今後、日本でのロボット手術が可能なマーケットが大きく拡大することが期待される。
- ✓ 中国においても、同社システムの設置台数に関する規制緩和が期待されていることから、中期的なシステムの販売台数及び手術件数の増加による業績拡大が期待される。

<図9> 株価の推移

2013年12月31日～2018年2月28日、日次



(出所)ブルームバーグのデータより野村アセットマネジメント作成

記載内容(各種情報より野村アセットマネジメント作成)は資料作成時点で確認できるものを使用しており、今後修正される場合があります。上記は、ファンドの上位組入銘柄の参考情報を提供することを目的としており、特定銘柄の売買などの推奨、また価格などの上昇や下落を示唆するものではありません。上記は過去のデータであり、将来の投資成果を示唆あるいは保証するものではありません。

当資料は、ファンドのご紹介を目的として野村アセットマネジメントが作成したご参考資料です。当資料は信頼できると考えられる情報に基づいて作成しておりますが、情報の正確性、完全性を保証するものではありません。当資料中の記載内容、数値、図表等については、当資料作成時点のものであり、事前の連絡なしに変更されることがあります。なお、当資料中のいかなる内容も将来の投資収益を示唆あるいは保証するものではありません。ファンドは、株式などの値動きのある有価証券等に実質的に投資します(また、外貨建資産に投資しますので、この他に為替変動リスクもあります。)ので、基準価額は変動します。したがって、元金が保証されているものではありません。ファンドに生じた利益および損失はすべて受益者に帰属します。お申込みにあたっては、販売会社よりお渡しする投資信託説明書(交付目論見書)の内容を必ずご確認ください。

足元の投資環境

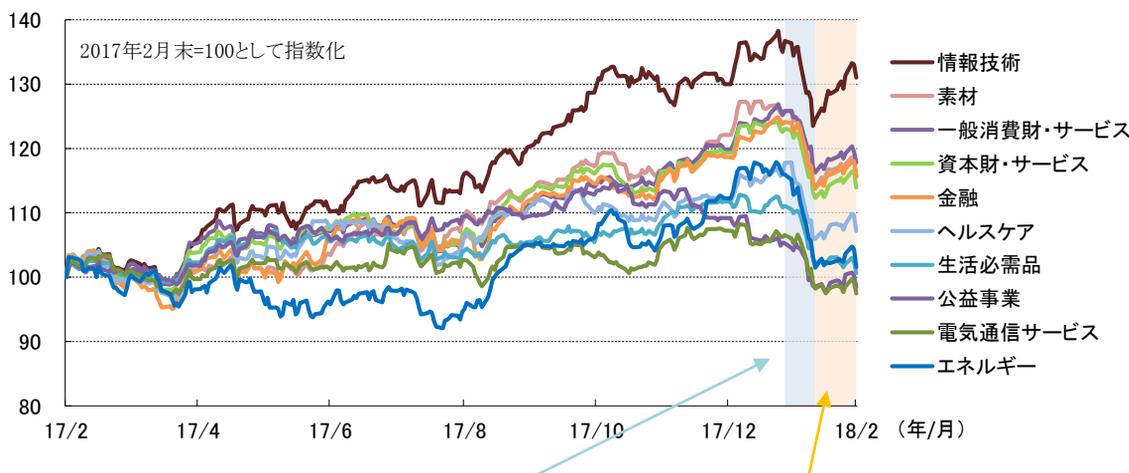
世界の株式市場は、昨年2017年は総じて堅調に推移、そして2018年1月も大幅上昇しました。しかし、その後2月前半での大幅下落など、大きな変動が生じています。

2018年1月下旬の高値までの上昇期間では、セクター間のリターン差が比較的大きく、特に情報技術(IT)セクターが上昇を主導しました。それに対し、2月の下落局面では、セクター間のリターン差は一転して小さくなりました(<図11>)。この背景として、セクター間や個別銘柄間にあるべき差(ファンダメンタルズ(基礎的な要因)による変化など)に着目した株式の資産クラス内での投資判断ではなく、株式と現金を含む他の資産クラスとの投資比率の変更等により、株式市場全体の売りが多かったのではないかと推察されます。

一方で、急落後の2月中旬からの反発局面では、1月までのように情報技術(IT)セクターが反発をけん引する結果になり、セクター間のリターン差は再度拡大しています(<図12>)。

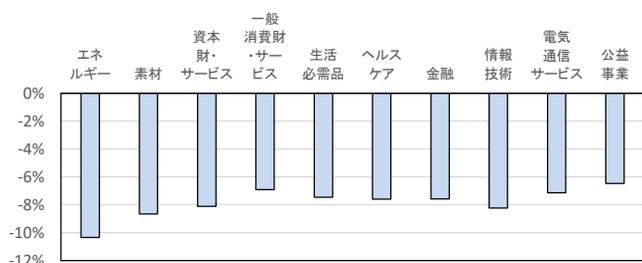
<図10>直近1年間の世界株(セクター別)のパフォーマンス推移

期間:2017年2月末~2018年2月末、日次



<図11:下落局面>騰落率の比較(セクター別)

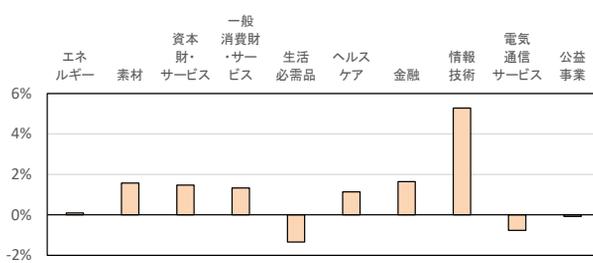
期間:2018年1月31日~2018年2月9日、日次



セクター間の差が小さい

<図12:反発局面>騰落率の比較(セクター別)

期間:2018年2月9日~2018年2月28日、日次



セクター間の差が再度拡大

背景

同時期に発表が進んだ企業決算の2017年実績や2018年の業績見通しからは、今後の企業業績悪化の兆しは見られなかった。つまり、今回はファンダメンタルズが悪化したことによる株価下落ではない可能性が高いと市場で判断されたことが、このような現象が見られた背景と考えられる。

世界株(セクター別):MSCIオール・カントリー・ワールド・インデックスのセクター別指数
(出所)FactSetのデータより野村アセットマネジメント作成

— 上記は過去のデータであり、将来の投資成果を示唆あるいは保証するものではありません。
— また、ファンドの運用実績ではありません。ファンドの運用成果を示唆あるいは保証するものではありません。 —

当資料は、ファンドのご紹介を目的として野村アセットマネジメントが作成したご参考資料です。当資料は信頼できると考えられる情報に基づいて作成しておりますが、情報の正確性、完全性を保証するものではありません。当資料中の記載内容、数値、図表等については、当資料作成時点のものであり、事前の連絡なしに変更されることがあります。なお、当資料中のいかなる内容も将来の投資収益を示唆あるいは保証するものではありません。ファンドは、株式などの値動きのある有価証券等に実質的に投資します(また、外貨建資産に投資しますので、この他に為替変動リスクもあります。)ので、基準価額は変動します。したがって、元金が保証されているものではありません。ファンドに生じた利益および損失はすべて受益者に帰属します。お申込みにあたっては、販売会社よりお渡しする投資信託説明書(交付目論見書)の内容を必ずご確認ください。

ファンドマネージャーのコメント

以下の内容は当資料作成時点のものであり、予告なく変更する場合があります。

米国企業は、各セクターで大幅な増益の見通し

ファンドの資産内容を国・地域別で見ると、米国への配分比率が77.1%※(2018年2月28日現在)と最も高く、主要な投資先である米国についてご説明します。

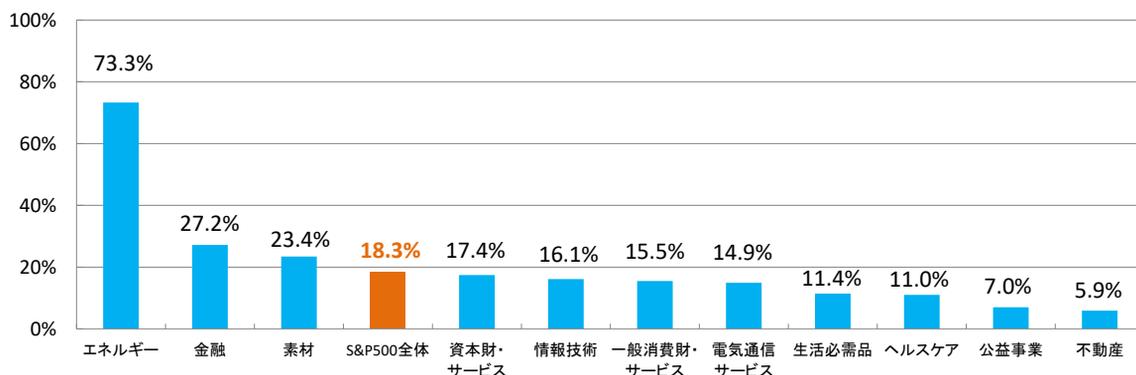
※ マザーファンドの資産内容です。

米S&P500株価指数の構成銘柄(以下、S&P500企業)の2018年の利益成長率は、税制改革による好影響が考慮され高い成長が見込まれており、S&P500企業全体で18.3%の増益が予想されています(2018年3月2日現在)。また、昨年末時点での予想と比較しても、大幅に上方修正されています。

この好調な企業業績が、株価上昇の最大のサポート要因となると考えており、金利動向や政治的問題による影響を受ける場面も想定されますが、成長期待の高いテーマに関連する好業績銘柄を中心に株式市場は堅調な推移を続けると考えています。

<図13> S&P500企業の2018年の予想利益成長率(セクター別)

2018年3月2日現在



(出所) FactSetによる予想。FactSetのデータより野村アセットマネジメント作成

— 上記は過去のデータであり、将来の投資成果を示唆あるいは保証するものではありません。
また、ファンドの運用実績ではありません。ファンドの運用成果を示唆あるいは保証するものではありません。 —

ファンドは、成長が期待できるテーマや企業に中長期で投資する手段の一つ

ファンドの足元のパフォーマンスは、1月に続いて2月も、参考指数(MSCIオール・カンントリー・ワールド・インデックス(税引後配当込み・円換算ベース))に対して大幅な超過リターンを獲得するなど、堅調に推移しました。ファンドでは、短期的な株価変動に過度に振り回されることなく、成長が期待できるテーマや企業に中長期で投資します。

引き続き、中長期での成長テーマ及び関連銘柄の調査や選定、短期的な株式市場動向にも留意したポートフォリオを構築し、投資収益の獲得に努めてまいります。

今後とも、「野村未来トレンド発見ファンド」(愛称:先見の明)をご愛顧賜りますようお願いいたします。

以上

野村未来トレンド発見ファンド
Aコース(為替ヘッジあり)/Bコース(為替ヘッジなし)

【ファンドの特色】

- 信託財産の成長を目標に積極的な運用を行なうことを基本とします。
- 新興国を含む世界各国の株式(DR(預託証券)^{※1}を含みます。)を実質的な主要投資対象^{※2}とします。
 - ※1 Depository Receipt(預託証券)の略で、ある国の株式発行会社の株式を海外で流通させるために、その会社の株式を銀行などに預託し、その代替として海外で発行される証券をいいます。DRは、株式と同様に金融商品取引所などで取引されます。
 - ※2 「実質的な主要投資対象」とは、「グローバル・マルチテーマ マザーファンド」を通じて投資する、主要な投資対象という意味です。
- 償還金額等が企業の株式の株価に連動する効果を有するリンク債、金融商品取引所に上場(これに準ずるものを含みます。)されている株価指数連動型上場投資信託証券(ETF)ならびに不動産投資信託証券(REIT)および企業の株式の株価に係るオプションを表示する証券または証券も含まれます。
- 銘柄選定にあたっては、グローバルな視点で投資魅力のある中長期の成長テーマ[※]を複数選定し、関連する銘柄群を中心に利益成長に着目した銘柄選択を行ないます。
 - ※ 「新たな価値の創造」、「新興国へのトレンドの広まり」、「社会構造の変化」の観点から成長テーマの選定を行なうことを基本とします。
 - ◆ 成長テーマは随時見直しを行ない、それに伴い組入銘柄の変更を行ないます。
- 株式の実質組入比率は、原則として高位を基本とします。
- 「Aコース(為替ヘッジあり)」は原則として為替ヘッジを行ない、「Bコース(為替ヘッジなし)」は原則として為替ヘッジを行ないません。
- ファンドは「グローバル・マルチテーマ マザーファンド」を通じて投資するファミリーファンド方式で運用します。
- 「Aコース(為替ヘッジあり)」「Bコース(為替ヘッジなし)」間でスイッチングができます。
- 原則、毎年11月14日(休業日の場合は翌営業日)に分配を行ないます。

分配金額は、分配対象額の範囲内で、原則として基準価額水準等を勘案して委託会社が決定します。

* ファンドの分配金は投資信託説明書(交付目論見書)記載の「分配の方針」に基づいて委託会社が決定しますが、委託会社の判断により分配を行なわない場合もあります。また、将来の分配金の支払いおよびその金額について示唆、保証するものではありません。

資金動向、市況動向等によっては上記のような運用ができない場合があります。

＜分配金に関する留意点＞

ファンドは、計算期間中に発生した運用収益(経費控除後の配当等収益および評価益を含む売買益)を超えて分配を行なう場合があります。したがって、ファンドの分配金の水準は必ずしも計算期間におけるファンドの収益率を示唆するものではありません。投資者の個別元本(追加型投資信託を保有する投資者毎の取得元本)の状況によっては、分配金額の一部または全部が、実質的に元本の一部払戻しに相当する場合があります。分配金は、預貯金の利息とは異なりファンドの純資産から支払われますので、分配金支払い後の純資産はその相当額が減少することとなり、基準価額が下落する要因となります。計算期間中に運用収益があった場合においても、当該運用収益を超えて分配を行なった場合、当期決算日の基準価額は前期決算日の基準価額と比べて下落することになります。

＜当資料で使用した指数について＞

・「MSCIオール・カントリー・ワールド・インデックス」は、MSCIが開発した指数で、同指数の著作権、知的所有権その他一切の権利はMSCIに帰属します。またMSCIは、同指数の内容を変更する権利および公表を停止する権利を有しています。

・「MSCIオール・カントリー・ワールド・インデックス(税引後配当込み・円換算ベース)」は、MSCI ACWI(All Country World Index) Index(税引後配当込み・ドルベース)をもとに、委託会社が独自に円換算したものです。MSCI ACWI(All Country World Index) Index(税引後配当込み・ドルベース)は、MSCIが開発した指数で、同指数の著作権、知的所有権その他一切の権利はMSCIに帰属します。またMSCIは、同指数の内容を変更する権利および公表を停止する権利を有しています。

・S&P500株価指数は、スタンダード&プアーズが公表している株価指数で、米国の主要500社によって構成されております。当該指数に関する一切の知的財産権その他一切の権利はスタンダード&プアーズ ファイナンシャル サービスーズ エル エル シーに帰属しております。

当資料は、ファンドのご紹介を目的として野村アセットマネジメントが作成したご参考資料です。当資料は信頼できると考えられる情報に基づいて作成しておりますが、情報の正確性、完全性を保証するものではありません。当資料中の記載内容、数値、図表等については、当資料作成時点のものであり、事前の連絡なしに変更されることがあります。なお、当資料中のいかなる内容も将来の投資収益を示唆あるいは保証するものではありません。ファンドは、株式などの値動きのある有価証券等に実質的に投資します(また、外貨建資産に投資しますので、この他に為替変動リスクもあります。)ので、基準価額は変動します。したがって、元金が保証されているものではありません。ファンドに生じた利益および損失はすべて受益者に帰属します。お申込みにあたっては、販売会社よりお渡しする投資信託説明書(交付目論見書)の内容を必ずご確認ください。

野村未来トレンド発見ファンド
Aコース(為替ヘッジあり)/Bコース(為替ヘッジなし)

【投資リスク】

各ファンドは、株式等を実質的な投資対象としますので、組入株式の価格下落や、組入株式の発行会社の倒産や財務状況の悪化等の影響により、基準価額が下落することがあります。また、外貨建資産に投資しますので、為替の変動により基準価額が下落することがあります。

したがって、投資家の皆様の投資元金は保証されているものではなく、基準価額の下落により、損失が生じることがあります。なお、投資信託は預貯金と異なります。

※詳しくは投資信託説明書(交付目論見書)の「投資リスク」をご覧ください。

【お申込メモ】

- 信託期間 平成37年11月14日まで
【Aコース(為替ヘッジあり)】平成29年6月2日設定
【Bコース(為替ヘッジなし)】平成27年11月27日設定
年1回の決算時(原則、11月14日。休業日の場合は翌営業日)に分配の方針に基づき分配します。
- 決算日および収益分配
- ご購入価額
- ご購入単位 1万口以上1口単位(当初元本1口=1円)
または1万円以上1円単位
(ご購入コースには、分配金を受取る一般コースと、分配金が再投資される自動けいぞく投資コースがあります。原則、ご購入後にご購入コースの変更はできません。)
※お取扱いコース、ご購入単位は販売会社によって異なる場合があります。
- ご換金価額
- スイッチング 「Aコース(為替ヘッジあり)」「Bコース(為替ヘッジなし)」間でスイッチングが可能です。
※販売会社によっては、スイッチングのお取扱いを行わない場合があります。
- お申込不可日 販売会社の営業日であっても、申込日当日が、下記のいずれかの休場日に該当する場合には、原則、ご購入、ご換金、スイッチングの各お申込みができません。
・ロンドン証券取引所 ・ニューヨーク証券取引所
- 課税関係 個人の場合、原則として分配時の普通分配金ならびに換金時(スイッチングを含む)および償還時の譲渡益に対して課税されます。ただし、少額投資非課税制度などを利用した場合には課税されません。なお、税法が改正された場合などには、内容が変更になる場合があります。詳しくは販売会社にお問い合わせください。

【当ファンドに係る費用】

(2018年3月現在)

◆ご購入時手数料	ご購入価額に3.24%(税抜3.0%)以内で販売会社が独自に定める率を乗じて得た額 <スイッチング時> 販売会社が独自に定める率を乗じて得た額 *詳しくは販売会社にご確認ください。
◆運用管理費用(信託報酬)	ファンドの純資産総額に年1.674%(税抜年1.55%)の率を乗じて得た額が、お客様の保有期間に応じてかかります。
◆その他の費用・手数料	組入の有価証券等の売買の際に発生する売買委託手数料、外貨建資産の保管等に要する費用、監査法人等に支払うファンドの監査に係る費用、ファンドに関する租税等がお客様の保有期間中、その都度かかります。 ※これらの費用等は運用状況等により変動するため、事前に料率・上限額等を示すことができません。
◆信託財産留保額 (ご換金時、スイッチングを含む)	1万口につき基準価額に0.3%の率を乗じて得た額

上記の費用の合計額については、投資家の皆様がファンドを保有される期間等に
応じて異なりますので、表示することができません。
※詳しくは、投資信託説明書(交付目論見書)の「ファンドの費用・税金」をご覧ください。

【ご留意事項】

- ・投資信託は金融機関の預金と異なり、元金は保証されていません。
- ・投資信託は預金保険の対象ではありません。
- ・登録金融機関が取り扱う投資信託は、投資者保護基金制度が適用されません。

◆設定・運用は

野村アセットマネジメント

商号:野村アセットマネジメント株式会社
金融商品取引業者 関東財務局長(金商)第373号
加入協会:一般社団法人投資信託協会/
一般社団法人日本投資顧問業協会

ファンドの基準価額等についてのお問い合わせ先:野村アセットマネジメント株式会社

★サポートダイヤル★ ☎0120-753104

(受付時間)営業日の午前9時~午後5時



★インターネットホームページ★

<http://www.nomura-am.co.jp/>

★携帯サイト★

<http://www.nomura-am.co.jp/mobile/>

当資料は、ファンドのご紹介を目的として野村アセットマネジメントが作成したご参考資料です。当資料は信頼できると考えられる情報に基づいて作成しておりますが、情報の正確性、完全性を保証するものではありません。当資料中の記載内容、数値、図表等については、当資料作成時点のものであり、事前の連絡なしに変更されることがあります。なお、当資料中のいかなる内容も将来の投資収益を示唆あるいは保証するものではありません。ファンドは、株式などの値動きのある有価証券等に実質的に投資します(また、外貨建資産に投資しますので、この他に為替変動リスクもあります。)ので、基準価額は変動します。したがって、元金が保証されているものではありません。ファンドに生じた利益および損失はすべて受益者に帰属します。お申込みにあたっては、販売会社よりお渡しする投資信託説明書(交付目論見書)の内容を必ずご確認ください。

野村未来トレンド発見ファンド（愛称:先見の明） Aコース(為替ヘッジあり)／Bコース(為替ヘッジなし)

お申込みは

金融商品取引業者等の名称		登録番号	加入協会			
			日本証券業協会	一般社団法人 日本投資 顧問業協会	一般社団法人 金融先物 取引業協会	一般社団法人 第二種金融商品 取引業協会
株式会社琉球銀行	登録金融機関	沖縄総合事務局長(登金)第2号	○			
株式会社SBI証券	金融商品取引業者	関東財務局長(金商)第44号	○		○	○
高木証券株式会社	金融商品取引業者	近畿財務局長(金商)第20号	○			
楽天証券株式会社	金融商品取引業者	関東財務局長(金商)第195号	○	○	○	○
とうほう証券株式会社	金融商品取引業者	東北財務局長(金商)第36号	○			
野村証券株式会社	金融商品取引業者	関東財務局長(金商)第142号	○	○	○	○

※上記販売会社情報は、作成時点の情報に基づいて作成しております。

※販売会社によっては取扱いを中止している場合がございます。